

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 西九州自動車道 一般国道497号 <small>からついまり</small> 唐津伊万里道路	事業区分	一般国道 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自： <small>からつしなかばる</small> 佐賀県唐津市中原 至： <small>いまりしみなみはたちょうふまねき</small> 佐賀県伊万里市南波多町府招	延長	18.1km
事業概要 唐津伊万里道路は、西九州自動車道の一部を形成する道路であり、九州北西部の広域的な地域間の連携を図り、地域活性化や物流の効率化に大きく寄与するとともに、防災機能・安全性向上などを確保する事業である。		
H4年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H10年度用地着手
H14年度工事着手		
全体事業費	約877億円	事業進捗率
		約59%
計画交通量	18,700～23,700台/日	
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.6 (残事業) 4.5	総費用： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 289/967億円 (事業費：248/900億円) (維持管理費：41/66億円)
	総便益： <small>(残事業)/(事業全体)</small> 1,303/1,587億円 (走行時間短縮便益：1,014/1,234億円) (走行経費減少便益：180/221億円) (交通事故減少便益：108/131億円)	基準年： 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.5～1.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.6～1.7（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.5～1.7（事業期間 ±20%）		
【残事業】交通量：B/C=4.1～4.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=4.1～4.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.1～4.7（事業期間 ±20%）		
事業の効果等 ①地域間交流連携の支援 ・唐津市～伊万里市間の時間短縮による地域間の交流連携の活性化に寄与 ②地域産業の支援 ・輸送時間短縮や走行性向上による地域ブランドの付加価値が向上 ③災害に強いネットワークの構築 ・並行現道である国道202号の災害時における代替路として機能 ④活力ある地域づくりの支援 ・観光拠点へのアクセス時間の短縮や観光周遊の可能性拡大による地域の観光振興に寄与 ⑤交通安全・走行性の向上 ・並行現道である国道202号からの交通が転換・減少することにより、現道の交通安全性が向上 ⑥救急医療活動の支援 ・第三次救急医療施設（唐津赤十字病院）への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ⑦交通混雑の緩和 ・並行現道である国道202号の交通混雑の緩和に寄与		
関係する地方公共団体等の意見 唐津市・伊万里市をはじめとする8市4町で構成される西九州自動車道建設促進期成会等により早期整備の要望を受けている。（平成25年8月）		
県の意見： 早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		

沿線地域の唐津市、伊万里市の人口は減少傾向にあり、自動車保有台数も近年減少に転じているものの九州全体よりも高く、自動車依存は高い。並行現道である国道202号の交通量は増加傾向であり、混雑度は約1.4である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約59%であり、そのうち用地進捗率は約99%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

- ・北波多IC～谷口IC L=4.8km (2/4)：平成26年度開通予定
- ・谷口IC～伊万里東IC L=5.3km (2/4)：平成29年度開通予定

施設の構造や工法の変更等

- ・評価対象の変更（用地4車＋工事2車→用地4車＋工事4車）による増【約222億円増】
- ・新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

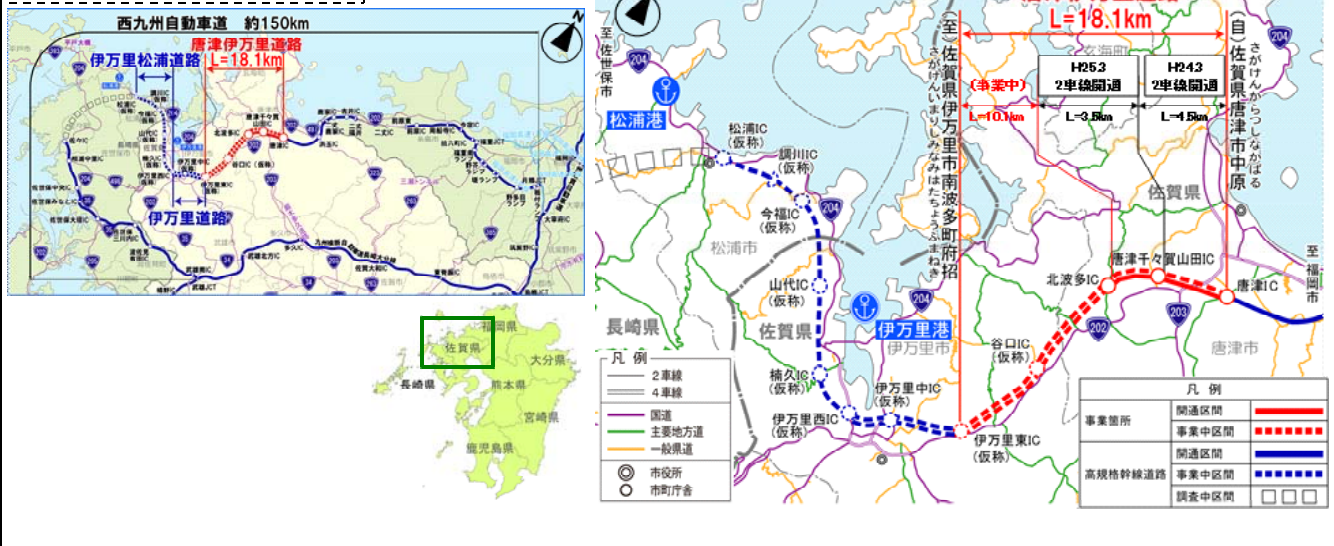
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。